

2025年8月28日

世田谷プラットフォーム協議会 御中

東京都市大学

「【地域の教育支援活動】世田谷区立教育総合センターSTEAM 教育事業」実施報告

世田谷区の児童・生徒を対象とした「【地域の教育支援活動】世田谷区立教育総合センターSTEAM 教育事業」において、「立体視と光のトリックの世界を体験しよう！」を8月15日に実施した。

本取組は、世田谷プラットフォームが地域活性化を目的に、世田谷区及び産業界と共同で企画の上、実施する事業で、区内6大学がそれぞれもつりソースを活かし講座を展開している。

今回の講座は立体視の原理を理解させることを目的とし、参加者が体験を通じて学ぶことを重視した原理説明と工作ワークショップを実施した。まず「手を使った利き目遊び」や「指を使った奥行きの違い」といった問いかけと実演を通して、奥行きの認識を体験的に理解してもらった。さらに磁石式イラストを用いて、レンズの原理についても視覚的に説明し、参加者が前に出て、イラストを正しい位置に貼るクイズも行った。その後の工作ワークショップでは、色の变化するイラストやクイズ形式の仕掛けを体験してもらうことで、楽しみながら原理とのつながりを実感してもらった。最後には立体視がイラストのわずかなズレが生じることを確かめ、レンズとイラストをレジンで貼り合わせて作品を完成させ、成果物として持ち帰ってもらった。すべての工程で、本学学生が参加者をサポートし、講座をスムーズに進行することができた。参加者は21名、アンケート結果より、特に「紙にレンズを置いて、いろいろな方向から観察したり、動かしてみたりする体験が印象に残った」という声が寄せられた。今回の講座には、合計で21名の参加者がであった。

当日の共同運営参加者は以下の通り。

東京都市大学：(デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科 佐藤佳浩講師、
補助学生8名、学事部・地域連携課 荒屋勝壽、黒木留見子)

昭和女子大学：理事長・総長・学長室 佐伯絵奈

地方自治体・産業界：世田谷区教育委員会、株式会社そごう・西武

当日の様子

★写真



視点による視界の変化の学び



レンズを使った光線の変化の学び



絵が変わるプレート工作